

相向 kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌
学校法人 目白学園
目白大学大学院
目白大学
目白大学短期大学部
目白学園中学校・高等学校

第10号
通算108号
2007.07



Special issue-1

**充実の教育環境で
福祉の課題の多様化に
即応できる専門家を育成**

平成19年4月より福祉系研究科・コース新設

Special issue-2

**14年の“伝統”を
継承しながら
いま、第2の草創期へ**

保健医療学部開設3年目を迎えた岩槻キャンパスを訪ねて

目白探訪 新宿キャンパス7号館
学園インフォメーション

輝く目白の星 人々を幸せな気分にするお菓子づくりを目指します

短期大学部生活科学科製菓コース(現 製菓学科)卒業 町田 浩香さん



撮影:佐藤真那人(目白大学写真部・心理カウンセリング学科3年)

平成19年4月より福祉系研究科・コース新設

充実の教育環境で福祉の課題の多様化に即応できる専門家を育成

平成19年4月より目白大学大学院に生涯福祉研究科、そして短期大学部生活科学科に生活福祉コースが新設されました。昨今の社会ニーズに対応して各大学に福祉系学科が増設される中にあって、両科は目白大学ならではの特色を持っています。特に研究科は、「生涯」という人間のライフステージ全体を福祉という視点から見直し、関連諸学と連携しながら福祉学を再構成しているという新しい試みから出発しています。担当の先生方に、新設のねらいとともに実践的カリキュラムや多彩な講師陣などについてご紹介いただきました。



多彩な講座と利便性

修了時には2つの修士が選択可能

まず、生涯福祉研究科では、1年次に履修予定の基幹科目(生涯福祉総論やソーシャルワーク論など)に加え、関心に応じて福祉領域の研究と保育・発達支援領域の研究の深耕が可能な科目を設定しました。さらに、ソーシャルワークやハビリテーションの演習を通して高度に専門的な援助技術を習得できるよう、体系的なカリキュラムが組まれています。

こうした科目の多彩さ、それぞれの分野を専門とする豊富な講師陣に加え、目白ならではの特筆すべき長所を持っています。

まず、都心の利便性を活かして社会人に門戸を開いていることから、授業が平日の昼夜、そして土曜日にも行われていることです。また、単位の取得がしやすいよう、セメスター制を取り入れています。現在は、学部卒業生3名と、さらに現在のキャリアにおける福祉の観点を深めたいという意

欲を持った、看護と老人ケアの現場で働く2名の社会人が研究科で学んでいます。

第2の特長は、1年次から1週90分の特別研究と

いう講座科目が受けられる点です。学生は、2年間を通して受講できるこの講座の中で、関連機関で実習したり、長期にわたる調査を行ったりして、修士論文作成のための十分な準備をすることができます。すなわち、正規の授業の中で専任指導教員による修士論文の指導が保証されているわけで、これは大きな特色といってよいでしょう。

修了時には、学問としては新しい領域である社会福祉学、もしくは保育学のいずれかの修士号が取得できることともに、行政職や福祉サービス企業などへの就職の道や、復帰した職場でのキャリアアップの道が開かれています。

介護の精神を学ぶ講座で専門学校との差別化を実現

一方、短大の生活科学科に新設された生活福祉コースは、高齢者や障害者を含めた様々な世代がお互いに支え合う生活環境の実現を目指し、実質的には介護福祉士の資格取得を目標においています。そのためには、介護技術をはじめとして医学や福祉論など2年間で1,800時間の履修が必要となり、その約3分の1を、対象者が生活する施設や居宅での実習に費やします。

本学と同様に介護福祉士資格が取れる専門学校と異なるのは、ケアマネジメン

ト学や生命科学と倫理学など、介護の指導的人材の育成という使命に則った講座が組み込まれている点です。高校を卒業したばかりの学生にとっては、技術の習得もさることながら、まず社会の一員と

先生から一言



生涯福祉研究科
生涯福祉専攻研究科長
西澤 利朗教授
専門は精神保健福祉
(精神障害者福祉)領域での
社会福祉援助方法と技術を
基礎としたソーシャルワーク
理論と実践の研究。

本研究科は、専門的で新しい臨床実践と政策研究の深耕という社会的要請に応える教育環境が整っています。「生涯福祉」という視点を基盤とする大学院は全国でも珍しく、その存在意義と責任は非常に大きいと自覚しております。昼夜の開講は講師陣にとっても厳しいものですが、意欲ある方々の入学を期待して一層の充実に努めていきたいと考えています。



短期大学部
生活科学科
生活福祉コース
渡邊 祐紀専任講師
専門は生命倫理学、
認知症ケア。

生涯福祉コースは生活科学科に属しますので、あくまで科学(学問)的なアプローチを大切にしなければなりません。福祉とは、人がよりよく生きられるという状態を表す言葉です。ですから、技術だけでなく「そうなるために、なぜそうするのか」という思考過程を鍛えていたいと思います。





しての基本的なマナーや考え方を身に付けることが求められます。したがって、講師陣は介護の技術や理論の専門家であると同時に学生の様々な悩みや相談にも気軽に応じる体制を取っており、開かれた研究室のあり方もこのコースの大きな魅力の一つです。

2年間の修学を終えた時点で規定の単位を修得していれば、国家資格である介護福祉士を試験免除で取得することができます。また、このコースから目白大学人間学部人間福祉学科の3年に編入することで、同じく国家資格である社会福祉士の国家試験受験資格の取得が可能となります。

その他、社会福祉主事任用資格や福祉住環境コーディネーター資格取得のための講座も開講されており、福祉関連業界への就職をめざす学生にとって、目標実現のための実践的なコースとなっています。

生涯福祉の学究は、建学の精神

このように、今年度新設された両科・コースは「学んだことを将来に活かす」こと

介護実習室をリニューアル・入浴実習室を新設

学校内で実践的な介護技術が学べるよう、介護実習室と入浴実習室が完備されています。介護実習室にはベッドや車いすをはじめ、様々な状態の被介護者を想定した福祉用具が準備されており、在宅ケア用和室も設けられています。また、入浴実習室には寝た状態のまま入浴できる特殊浴槽や家庭浴槽、訪問介護用の携帯浴槽が備えられ、入浴介助の技術習得に役立っています。学生は、両室での学習を通して、また介護者と被介護者の役割を両方体験することにより相互心情への理解を深め、介護の質を高めることができます。



を基本に置く本学の教育活動の中でも、顕著にその趣旨を体现しているといえます。「社会に貢献し、師と共にひたむきに学び、支えてくれる人々に感謝する」という本大学の建学の精神「主・師・親」に則った設立と言っても良いでしょう。「生涯福祉」という視点をしっかりと持った専門家を「育

て送り出す」ことは、まさに社会に対する貢献であり、家族をはじめ自分を支えてくれる人々への感謝の気持ちの表れでもあります。そうした意味でも、このたび生涯福祉研究科と生活科学科生活福祉コースが目白大学に設立されたことは、大変意義深いと言えます。

Student's Voice



生活科学科生活福祉コース1年
上妻 奈月さん
青森県立八戸東高等学校出身

介護技術や介護実習指導などの実技や福祉全般にわたる講義、それに医学一般や法律といった一般教養まで、様々な分野を学んでいます。特に、介護技術の授業では新しい知識をたくさん吸収しています。とにかく気付いたことはメモを取ることを心がけて、普段の授業に臨んでいます。

先生方全員が福祉関係の在職経験があり、何でも相談できるほど私たち学生との距離が近いので心強いですね。少人数のクラスはみんな同じ夢を持っていて、一緒に作業をするので、クラス全体がとても仲が良いです。私は今のところ、介護福祉士としてすぐに働きたいと考えていますが、クラスメートには人間福祉学科への編入を考えている人もたくさんいます。

Student's Voice



生涯福祉研究科生涯福祉専攻1年
傳田 悠生さん
大正大学人間学部人間学科卒業

学部の人間福祉学科、心理カウンセリング学科、地域社会学科とつながりがあり、児童福祉について複眼的に学べると考え、この大学院を選択しました。障害者福祉と保育の2つが研究の柱で、私は保育学を中心に学んでいます。一授業あたりの人数が少ないので、先生との距離がとても近く感じるうえ、講義というより討論主体になり、疑問点・不明点がそのまま残らない点はとても良いですね。

実習では、子ども・家族支援特論の担当教授が運営されている施設を見たとき、自分のイメージよりずっと家庭的な雰囲気だったことに衝撃を受けました。さらにこの後、障害を持つ乳幼児の保育施設で実習をする予定で、将来は児童福祉の分野、特に虐待対応に関われる分野で働きたいと思っています。

保健医療学部開設3年目を迎えた岩槻キャンパスを訪ねて 14年の“伝統”を継承しながら いま、第2の草創期へ

人形の街・岩槻に、目白大学岩槻キャンパスが開学してはや14年。保健医療学部の開設からはまる2年が経過しました。文科系から、のちに開設した看護学部を含めた医療系へと学問領域をシフトしてきた同キャンパス。国家資格を取得して専門職を目指す学生が多くを占めるようになった現在、キャンパスにどんな変化が生まれているのでしょうか。文科系、医療系の学生それぞれの声と、ここで14年間教鞭を執っている加藤純一学生部長に「変わったもの」と「変わらないもの」を見つめ直していただくことを通じて、現在の岩槻キャンパスの魅力を探ってみました。



文科系から健康・医療系学部の拠点へと変身

「目白大学入口」と名付けられたバス停のある車道から駆け抜けるアプローチを抜け、正門をくぐると右手にずらりと並んだ自転車の列。2年前に保健医療学部が設立されるまでは、車での通学者が多くいたそうですが、現在は地方出身の学生が下宿から通う割合も増え、通学手段にも変化が見られるようになりました。

「1,200名ほどいる学生数自体は、文科系が減り健康・医療系が増えた結果、大きな変化はありませんが、女子学生は格段に増えました。特に、看護学科開設後は女子の姿が目立ちます」と、開学当時から岩槻キャンパスを見ている加藤純一准教授は指摘します。「もちろん、以前も安全には気を配っていましたが、照明の届かないところがないようにするなど、女子学生の増加に合わせてさらに細かな配慮をするようになりました。また、学生食堂が広くなって副菜のメニューが多く選べるようになったのは、女子学生のおかげかもしれません」。

岩槻キャンパスの学問領域が、それまでの人文系から健康・医療・福祉をキーワードとした分野へと方向転換したのが平成17年4月。学ぶ事柄の性質上、様々

な設備を備えた実習棟も新設されました。歩行訓練や筋力トレーニングなどの運動療法を学ぶ機能訓練室、作業療法の実習用の陶芸室や病院同様の施設を完備した看護学実習室など、保健医療学部・看護学部のカリキュラムに欠かせない設備を備えています。

また、この4月から学生が自由に使えるパソコンの台数が一気に増えました。「人文学部の学生が



基盤を備えたまま医療系キャンパスに転換した岩槻キャンパスならではの特長と言えるでしょう。

見え始めた医療系学生の活動的な志向

こうした見た目の変化はあるものの、人文学部の学生が14年間守ってきた岩槻キャンパスの“伝統”は、スムーズに医療系学部の学生へ引き継がれているようです。

「年1回のスポーツフェスティバルという



使っていった情報処理室を「メディアプラザ」としてリニューアルし、LL機材や100台ほどのパソコンを置いて開放しました。近いうちに学生会館に無線LANを敷いて、学生自身のパソコンも使いやすくする予定です」。看護系の単科大学では学生用パソコンの台数が不足するケースも見られる中、コンピュータ関連施設をこれだけ充実できるのは、文系キャンパスとしての

イベントが今年も5月末にあったのですが、自分たちが持っているものをすべて後輩に伝えていこうと裏方に徹した人文学部の上級生たちと、それに協力する医療系学部の学生の連携が非常によく取れていて、とてもまとまったものになりました。ビーチボールバレー、サッカー、大縄跳びなど、アクティブでバラエティ豊かな競技の種類とチーム数で、大いに盛り上がりました。クラスチームあり、ゼミチームあり、課外活動チームあり、教職員チームありと、まさにフェスティバルの様相。しかも、学生が自



私たちですべて自主的にプログラムや構成を決めて運営していることにも、学部の枠を超えた連携を感じます」。

もう一つ、イベントで様変わりが見られるのが、11月に開かれる桐祭(とうえいさい)です。医療系と文科系の展示物のバランスが取れ、総合大学らしい学園祭が楽しめるようになっています。地元の方が野菜を販売する店を出すこともあり、地域との交流の場にもなっています。2日目の夜に打ち上げられる花火は、岩槻の晩秋の風物詩としてすっかり“名物”に。今年の実行委員会はすでに立ち上げられており、秋に向かって着々と準備が進行しているとのことです。

伝統を受け継ぎながら、 岩槻キャンパスはさらに進化中

開学以来の岩槻キャンパスを知る加藤先生は、こうした学校を挙げてのイベン

トの開催には、岩槻キャンパスの伝統的な精神が特に顕著に現れていると感じています。「何かを自分たちでつくっていきたいという自主の精神は、目白大生の核となっている気質です。スポーツフェスティバルや桐祭、そしてオープンキャンパスでの学生スタッフもそうですが、だれかが呼びかけて趣旨に賛同した者がその輪を広げ、盛り上げて成功に導くということを伝統的にやってきました」。

岩槻キャンパスではかつて、第1期生の学生自治会のトップが2年目に入ってきた後輩に対して、「目白大学岩槻キャンパスの伝統は、先輩・後輩・先生方だれにでも気軽に挨拶ができることです」と言ったという話があります。「2年目にしてすでに“伝統”ができていた」ことを物語る逸話なのですが、それが変わることなくずっと護られています。気軽に挨拶ができる「距離の近さ」が、教員と学生、学生同士の信頼関係につながり、様々なイベント成功の推進力になっているのでしょうか。



あと2~3年で、健康・医療系キャンパスへの転換は完了します。でも、人文学部の学生がつくり上げてきた「距離の近さ」や自主の精神といった“伝統”を健康・医療系学部の学生たちは見事に受け継ぎ、自分たちの個性を出しながら、まさに現在進行形でそれらを進化させているようです。「岩槻は第2の草創期を迎えていると思います。私たち教職員は、それをしっかりと支援していきます」。

取材協力



保健医療学部
理学療法学科
学生部長
加藤 純一准教授

平成6年、人文学部地域文化学科専任講師として就任、その後、平成19年4月保健医療学部理学療法学科准教授。専門分野は武道思想史、日韓武道文化交流。開学以来、剣道部顧問(現在7段)を務める。平成19年4月より学生部長に就任。

Student's Voice



尾嶋 将太 さん

人文学部現代社会学科4年
前クラブ連合会会長

僕が入学した当时、周りはほとんど男子学生で、食堂などもやや閑散とした感じがありました。看護学科ができてからは、女子学生が増えてキャンパスが華やかになった気がします。クラブ数もぐっと増え、特にアクティブラボーツが人気のようです。おもしろいのは、人文学部オンラインだった時代に廃止になったソフトボール、柔道などの運動部が、医療系の学生によって復活

していることです。嗜好の違いがありますね。スポーツフェスティバルなども人文学部の学生だけのときは参加率が低かったのですが、現在は質・量ともに充実して、大きな盛り上がりを見せています。僕はオープンキャンパスなどで、常々「岩槻の魅力は“狭い”ことだ」とアピールしているんです。友達、後輩、先生との“近さ”を感じられる規模だという意味です。学内のいろいろな活動を通して、知り合いが増えていく楽しさを感じています。



荒川 智美 さん

保健医療学部作業療法学科3年
現クラブ連合会会長

私の入学当時は、先輩は男子、同期は女子。最近は断然女子が目立ちます。医療系学部の学生は、何事もクラス単位で動くので、団結力が強いですね。だれかが声をかければ、みんなが協力し、物事がスムーズに決まります。学内のイベントも全員で参加するのが基本です。

でも、私たちが1期生ですから心細いことも多く、先輩が欲しくてクラブやサークル活動に入るということもあります。レポートでパソコンを使うことが多

いのですが、苦手な仲間が多く、人文学部の先輩に教えてもらっています。以前は人文学部の授業で使われていた教室が開放されているのですが、広くてとても使いやすいです。そうした文科系大学の利点を医療系学部の学生が享受できるのは、目白の岩槻キャンパスならではの強みだと思います。

私は入試のときの先輩や先生方の印象がとても良好でこの大学に入学することを決めたのですが、そうした先輩たちのつくったものを引き継ぎながら、自分たちの新しい面も出していきたいです。



新宿キャンパスの
東側に建つ7号館は、
心理カウンセリング学科や
大学院の心理学研究科の
研究教育棟です。
校舎内には、地域の方々への
相談サービスを行う
心理カウンセリングセンターも
併設されており、
より実践的な心理学の
研究・活用の場として
機能しています。

第9回 新宿キャンパス7号館



● 中講義室

7号館に2部屋あり、それぞれ約200人が一度に受講できます。中講義室は新宿キャンパスの各館にありますが、平面のまま扇状に広がる部屋の造りが7号館の中講義室の特徴です。

● 心理カウンセリングセンター

大学の教育・研究機関であるとともに、地域の方々への相談サービスを提供する機関として、本学心理カウンセリング学科の教員を中心としたカウンセリングの専門家が、心の悩みや心理的な問題でお困りの方の相談に応じています。来談した子どもの様子を観察する大プレイーム(写真左)や、カウンセリングの過程で利用する箱庭付き面談室(写真右)は、ともに学生の実習でも使用します。



● ポローニア

開放感溢れるカフェテリア。壁面は、本学卒業生でもある子ども学科のおかもとみわこ先生による作品で彩られています。併設のコンビニでは、近隣の福祉施設で製造したパンなども販売。障害者の自立支援を実践する場所となっています。



● サイコドラマ室

サイコドラマ(Psycho Drama)、すなわち「心理劇」とは演技を通じた心理療法の一つ。このサイコドラマ室では、そうした心理劇のロールプレイをするときに使用します。



学園インフォメーション

中学校・高校

2007.4.7 入学式



中学校は72名、高校は105名の新入生を迎える、平成19年度の入学式が佐藤重遠記念講堂において挙行された。キャンパスに咲き誇る桜の花の下、新入生たちは、やや緊張の面持ちで式に臨み、新しい学園生活をスタートさせた。

2007.5.19 合同運動会

大学岩槻キャンパスにおいて、中学校・高校の合同運動会が開催された。小雨が降る中で始まったが、午後はすっかり晴れ上がり、生徒たちはもちろん、教員や保護者の方々も競技の行方に歓声を上げていた。



2007.6.5 歌舞伎教室

高校3年生が国立劇場において「双蝶々曲輪日記 一引窓一」を鑑賞した。歌舞伎役者による見どころ解説も受けることができ、400年の歴史を持つ日本の伝統文化に直に触れる貴重な機会となった。

大学・短大・大学院

2007.3.29

第3回公共広告CM学生賞

メディア表現学科の学生7名が共同制作したテレビCM作品が、第3回公共広告CM学生賞(公共広告機構主催)で激励賞を獲得した。電通ホールで開かれた表彰式には制作チームを代表して同学科の津田幸司君、それに指導教員の内田東教授が出席。次回の健闘が大いに期待されての受賞となった。

2007.4.3 入学式

大宮ソニックシティにおいて、平成19年度の大学・短期大学部の入学式が挙行された。あいにくの雨模様となったが、大学・短大併せて1,800名余りの新入生が一堂に集い、会場は熱気に包まれていた。

2007.4.5~7 フレッシュマンセミナー

大学・短大の新1年生と教職員が静岡県の熱海ニューフジヤホテルと熱海金城館に集まり、恒例のフレッシュマンセミナーが実施された。プログラムは参加者全体で行うものから、学科ごとに分かれられるものまで多種多様。新生活に期待と不安を併せ抱く新入生同士が打ち解け合う絶好の機会ともなった。



2007.4.22 春のキャンパス見学会

新年度の入試や新学科に関する最新の情報を受験生にいち早く提供するため、新宿・岩槻両キャンパスで見学会を開催した。特に、

短期大学部では生活科学科、製菓学科とともにオープンキャンパスながらの体験授業を実施。春の陽気に包まれたキャンパスに、来春入学のイメージを重ね合わせる熱心な受験生たちが大勢訪れた。



2007.5.4 2007散打交流大会

「チャイニーズキックボクシング」の異名を持ち、北京五輪の公開種目にもなっている散打の新人戦(主催:中国武術・義龍會)が中央区総合スポーツセンターで実施され、本学の学生が多数入賞する快進撃を見せた。重量級では下田隆之君(経営学科2年)が敢闘賞を、中量級では西山和宏君(地域社会学科2年)が技能賞を獲得。さらに軽量級では薄井友希君(地域社会学科2年)が、敢闘賞とともに「NPO法人国際武術文化連盟賞」を受賞し、表彰された。

2007.5.30 スポーツフェスティバル

毎年恒例のスポーツフェスティバルが、今年も新宿・岩槻両キャンパスで開催された。あいにくの雨で、屋外競技のいくつかが中止となってしまったが、体育館を中心に行われた各種目は、男女ともに大変な盛り上がりを見せた。参加者は新宿キャンパスが1,117名・スタッフ134名の合計1,251名と過去最高、岩槻キャンパスでも668名を記録。新宿キャンパスでは、男子バレーボールで職員と学生の混合チームが初の優勝を飾るという名場面(?)も見られた。

新しい組織と施設でさらなる学生サービスを図ります

大学全体の拡充や学部・学科の改編が続く自白大学。この4月、さらなる学生サービスの向上を目指して新宿キャンパスに誕生した、新たな組織や施設をご紹介します。

資格支援センターを新設

10号館2階に、「資格支援センター」が新たに開設されました。近年、本学では学部・学科の拡充やカリキュラムの充実化に伴い、教員免許をはじめ各学科で取得できる資格が年々増加しています。このため、資格取得を目指す学生への支援内容をよりいっそう向上させることを目的として設立したものです。

資格取得のために実習が必要な場合も多いことから、実習先の安定的な確保や、質の維持・向上を図る役割も担っています。各学科の実習支援室等と緊密に連携を取りながら、学生がより高いレベルの実習に集中して取り組める環境を用意します。



製菓実習室を増設!

従来の短期大学部生活科学科製菓コースが、この4月から、短大では日本初となる製菓学科として生まれ変わりました。在籍する学生が大幅に増えたことから、製菓専用の実習室が増設され、早速、この春学期の授業から使用されています。教室の内部が廊下から大きなガラス越しに見えるのが新実習室の特徴で、授業中に教室の前に通る他学科の学生や来学者の方に、実習の様子がよく分かるようになっています。1号館の廊下を通るたびに甘い香りを楽しめる機会も、以前より増えたような気がします。





練馬小学校にほど近い閑静な住宅街の一角に位置する洋菓子店「パティスリー・キャロリース」。周りの緑に映えるオレンジのファサードが印象的なお店です。店内には香ばしいにおいのするパンや焼き菓子が所狭しと並べられ、女の子の名前がつけられた色とりどりのケーキたちがショーウィンドウを飾ります。どれもこれも宝石のように美しい、食べてしまうのが惜しいような愛らしさ。そんな素敵な店内に、「いらっしゃいませ」という町田 浩香さんの元気の良い声が響きます。今年の2月からこのお店で働いている彼女は、生活科学科製菓コース(現・製菓学科)の卒業生。「お菓子の種類が多くて、勉強ができるお店だと思いました」。同店は、製菓学科の中川二郎教授がオーナーシェフを務めています。恩師であり、現役のシェフであり、経営者でもある中川先生に、在学中の努力や製菓という仕事に対する熱意などが高く評価され、ここでキャリアの第一歩を踏み出すことになりました。

短大選択の理由は、最新設備と魅力的な講師

短期大学部の製菓学科は今年、短大では日本初の学科として誕生ましたが、その前身である製菓コースが設置されたのは平成17年のことでした。つまり、町田さんたちが第1期生ということになります。「製菓を学ぶにあたり、なぜ専門学校ではなく短大を選んだのか」という質問に、町田さんは「お菓子づくりに興味があってその分野に進みたいとは思っていましたが、それだけでは物足りない気がして。短大である目白は、そんな私の希望にぴったりの学校だったんです」と教えてくれました。製菓学科は、単にお菓子をつくる技術だけを学ぶのではなく、“ものづくり”を通して創造力やコミュニケーション能力を身に付けた人材を育てるこことを目指し、短大ならではの長所を備えた製菓コースとして発足した経緯があります。そうした方針に従い、同学科では製菓の知識や技能の習得はもちろん、社会人に求められる幅広い教養科目を履修することができるようになっています。町田さんは製菓コースに在籍しつつ、そうしたカリキュラムの中から園芸ライフデザインコースの授業も選択。「せっけんをつくりったり、アロマの勉強をしたり。必ず将来のお菓子づくりのヒントになると思いました」。

町田さんが目白大学短期大学部を選んだ理由は他にもあります。一つは、事前に自分の目

確かめたという最新設備。製菓用の機材は日進月歩で進化しており、10年前とは大きな相違がある、古いもので習得した技術では現場に出てから通用しないのだとか。「その点、目白短大は最新の設備を揃えているので、現在のお店などが備えているそのままの環境で勉強することができます」と中川先生。町田さんも、「IHのヒーターや巨大なオーブン、台には鏡が付いていて、お手本を示してくださる先生の手元が見えるようになっていましたね」と、学習環境のすばらしさを強調。そのうえ、現役のシェフに教わることができることも、彼女が目白短大を選択した大きな要因だったそうです。

難しい素材、チョコレートにチャレンジしたい

町田さんの現在のお店での仕事は主に接客です。子供からお年寄りに至るまでひっきりなしに来店するお客様の注文を間違えることなく揃え、お勧めのトークも交えながら笑顔で対応するのは、彼女を含めた同世代の3人の女性。お互い切磋琢磨する毎日が続きます。「まず、60種類以上ある商品のことを覚えなければなりません。季節によっても変わってきますし、週末限定

の商品もあります。それらの材料や特長をしっかりと覚えてお客様に説明できるようになるのが第一段階。その段階をなるべく早くクリアしたいですね」。

それから先輩パティシエたちがケーキづくりをする下準備の手伝いという段階を経て、ケーキの一部、例えばカスタードづくりなどを担当するという修業のステップが待っています。「なんとか5年くらいでケーキがつくり始められようになりたいです。私はチョコレートが好きなので、将来は濃厚で種類が多く、熱に弱い、このデリケートな素材にチャレンジしたい。フランスに留学もしたいし、国家試験である製菓技能士の資格も取りたいと思っています。現状に満足することなく、常に上を目指して新しい試みをし続けたいですね」。

中川先生によれば、習熟の速度は人それぞれ。

3年である程度できる人もいれば、10年

たっても進歩が見られない人もいるのだそうです。お店のある日は朝の6時からがんばり、お休みの日は他のケーキ店を回ったり、音楽や映画鑑賞でクリエイティブな感覚を磨いているという町田さんに、中川先生も大いに期待をかけています。



輝く目白の星

人々を幸せな気分にする お菓子づくりを目指します

短期大学部生活科学科製菓コース(現 製菓学科) 平成19年3月卒業
町田 浩香さん

まちだ ひろか